

## 特別講演 2

### 「前立腺肥大症と夜間頻尿」

東北大学大学院医学系研究科・泌尿器科学分野教授

荒井 陽一 先生

前立腺肥大症（BPH）は高齢男性に高率に見られ、男子の下部尿路症状（Lower Urinary Tract Symptom, LUTS）の要因の一つになる。一方、夜間頻尿は高齢 QOL に深刻な影響を及ぼすことが知られているが、従来は BPH によって引き起こされる症状と考えられてきた。しかし、最近の研究から夜間頻尿は BPH 治療に最も抵抗する症状であることがわかってきた。むしろ循環呼吸器疾患、精神疾患など様々な全身疾患の関与が示唆されている。また我々は疫学研究において、夜間頻尿が転倒骨折の大きな危険因子であることを示したが、さらに期待余命にも影響する重要な病態であることも明らかとなっている。本講演では BPH と夜間頻尿の古くて新しい関係を概観し、夜間頻尿に関する最新の知見を紹介する。